(C)河北新報社

みやぎ 地方創生の針路

④ 結婚・出産・子育て支援 ルポ

宮城県が策定した地方創生総合戦略は、少子化の傾向に歯止めをかけるため、「結婚・出産・子育て支援」を柱の一つに盛り込んでいる。シリーズ4回目は、育児休業の積極的な取得を促進するなどして、子育て支援や女性の職場環境整備に力を入れる七十七銀行（仙台市青葉区）とホシザキ東北（同）の2社を、県の若手職員が取材した。

山崎勇仁主事

早坂 純主事

七十七銀行 仙台市青葉区

全行挙げ女性活躍推進

仙台市中心部のオフィス街に本店を構える七十七銀行。年2回、休日の土曜日に育児休業中の女性行員が集まる座談会が開かれる。同行が2013年8月に立ち上げた「女性活躍推進ワーキンググループ」（WG）主催の「Work Work（わくわく） すこやかクラブ」だ。

目的は親睦だけではない。同行の育児支援制度や最近の事務手続きの改正点などを担当行員が説明すると、行員らはたちまちプロの表情に戻る。津田政克取締役執行役員人事部長（59）は「育休中の不安を緩和し、円滑な職場復帰を支援することを目的とした女性活躍推進施策の一環」と座談会開催の狙いを説明する。

七十七銀行が女性活躍の推進に取り組み始めてから10年以上がたつ。女性の社会進出や少子高齢化が進む中、同行でも人事部を中心に「将来に向けてどのように人材を活用していくか」を話し合う機会が増えた。

結論は「性別・年齢にかかわらず、やる気のある行員一人一人が活躍できる企業」。特に女性については「細やかな視点の商品開発や営業など、女性の力をより発揮できる職場にしよう」との声が多く、行内の意識変革も進んだという。WGの立ち上げに続き、13年11月には女性活躍推進の基本方針「Work Work Woman（わくわく・ウーマン）」を策定。柱の一つに「仕事と家庭生活の両立支援への取組強化」を据えた。

さらにWGで出た意見などを踏まえ、14年度からは「ワークライフバランス推進運動」を実施。定時退社や年次有給休暇取得促進、男性行員の育児休業取得促進などに力を入れている。「行員の仕事の段取りや家庭参画への意識が高まり、14年度の男性の育児休業取得率は100％に達した」と津田部長は振り返る。

宮城県でも、地方創生総合戦略の具体的な施策に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現（働き方改革）」を盛り込む。「女性のチカラを活かす企業」への認証制度は、女性職員の勤務状況や女性管理職の割合などに応じて知事が認証するもので、特に優れた企業をゴールド認証企業に指定。七十七銀行も県内14団体のゴールド認証企業のうちの一つだ。

津田部長は「女性の管理監督職を増やすなど、性別にかかわらず、やる気のある行員が生き生きと仕事ができる職場環境を整備したい」と意欲を見せている。

（宮城県情報システム課主事・山崎勇仁）

「行員のスケジュール管理の意識が非常に高くなった」とワークライフバランス推進運動の成果を語る津田取締役執行役員人事部長

WG主催の座談会で子育てについて意見を交わす女性行員たち＝仙台市青葉区の七十七銀行本店

メモ 国立銀行条例制定後の1878年に全国で77番目に開業した第七十七国立銀行が前身。総資産額は約8兆3400億円。本・支店、出張所を合わせた業務拠点数は141、行員は約2800人。現在、中期経営計画を進めて地域社会や経済発展への貢献に力を入れる。

ホシザキ東北 仙台市青葉区

育休取得を当たり前に

「電気代を大幅に削減し、環境にも優しいこちらの製品はいかがですか」。業務用厨房（ちゅうぼう）機器の販売やメンテナンスを手掛けるホシザキ東北。仙台市青葉区昭和町の本社ショールームでは、女性の営業担当者が顧客を相手にはつらつと商品をPRしている。

十数年前までは営業職がほとんど男性ばかりだった同社だが、「子育て支援を進めた結果、今では女性の営業も大幅に増えた」と総務課係長代理の高橋真弓さん（40）は説明する。

ホシザキ東北は2015年4月、仕事と子育ての両立支援に積極的な企業として厚生労働省が認定する「プラチナくるみん」を、全国で初めて取得した。

「くるみん」は次世代育成支援法に基づき、社員の仕事と子育てを両立させる行動計画を策定、実施し、その結果が認められた企業が認定される制度。これまで宮城県内で認定された23社の中でも、最高クラスの「プラチナくるみん」はホシザキ東北だけだ。

同社が子育て支援に力を入れるようになったきっかけの一つは離職率の高さ。休みが取りにくく、帰りも遅かった十数年前は、約400人の従業員のうち毎年60～70人が中途退職した。特に女性は結婚、出産をしたら辞めるのが当たり前だったという。「もっと社員が長く働ける快適な職場環境をつくらなければ」。3児の母で、特定社会保険労務士の資格を持つ高橋さん自身が問題意識を持ち、2週間以上の育休取得者には奨励金を支給するといった制度を導入。取得率は現在、男性が35・9％、女性は100％にまで高まった。

取得促進のためのユニークな取り組みの一つが育休レポートだ。家族と過ごす写真や期間中に感じたことをまとめて会社に提出し、社内イントラネットに掲載、社内で共有する。「ほほ笑ましいレポートの効果で育休を取りやすい雰囲気が広がった」と高橋さん。

本格的な少子化時代に備え、県も「子育てにやさしい宮城県の実現」を地方創生総合戦略に掲げ、セミナーやシンポジウムなどを開催。子育ての関心・理解を県民全体に広げる運動を展開中だ。

「育休取得が当たり前になるようにしたい。それがきっと『この会社で働いて良かった』と思える職場づくりにつながり、優秀な人材確保にもつながる」と強調する高橋さん。先進モデル企業として、さらなる子育て支援の充実を目指す。

（宮城県北部保健福祉事務所主事・早坂純）

「労働環境の充実は、愛社精神の育成にもなる」と期待する高橋係長代理

育休から復帰し、時短勤務を利用しながら営業活動に取り組む女子社員＝仙台市青葉区のホシザキ東北本社ショールーム

メモ 製氷機が世界トップシェアを誇る業務用総合厨房機器メーカー、ホシザキ電機の東北地区販売会社として1974年に設立。6県に32営業所があり、従業員は約470人。飲食業界では「ペンギンマーク」で知られ、厨房機器類の販売を通して東北の食文化を支える。

村井知事 ひとこと

県の地方創生総合戦略では、仕事と生活が調和した**働きやすい環境を整備**

多様な働き方や生き方が選択できる社会を実現し、男女が協力して子育てができるように取り組みを進めていくこととしています。今回、職員がお伺いしたのは、女性登用の推進や社員への子育て支援で、人材育成や働きやすい職場の実現に力を入れる企業です。

県は今後もワーク・ライフ・バランスの普及啓発に努め、男性も女性も働きやすい環境づくりを進めながら、市町村や企業などと連携した結婚・妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援を行ってまいります。

シリーズ「みやぎ地方創生の針路」は2015年度内に6回、原則として毎月第1日曜日に掲載する予定です。企画・制作は河北新報社企画事業部、協力は宮城県。

才能に力を

すべての人の才能は、ちゃんと引き出されているか。
すべてのチームの、組織の才能は引き出されているか。

人と組織は、管理されるためにあるのではない。
最大限のパフォーマンスを発揮し、
この世界に、新しい価値を生みだすために存在する。

本来の才能を、正しく引き出す。それだけで、人は、もっと輝ける。
組織は、もっと強くなる。世界は、可能性で満ちあふれる。

才能は、無限大だ。

CYDAS
EMPOWERMENT COMPANY

CYDAS.com
エンパワーメント・プラットフォーム

すべての人の才能を引き出すクラウドベースの人材プラットフォーム。
3つのアプリケーションで構成されています。

Performance Cloud
［人材管理・分析・育成アプリケーション］
人材情報を可視化し、人材管理から分析までを可能に。最適な人材配置や能力開発、戦略的な組織づくりを実現します。

MBO Cloud
［目標管理・人事考課アプリケーション］
社員の目標を、経営目標や部門目標と連動させ、確かな会社の成果に結びつけることができます。

Stream
［社内ソーシャルアプリケーション］
今秋リリース決定！社内コラボレーションの起点となる、まったく新しいビジネスSNSです。

詳しくはこちら▶ サイダス 検索